

編集後記

7月開催予定の東京五輪で、選手団を除く海外からの応援・観光客を受け入れずに開催する旨を決定したようです。この決定に対する各国のメディアの反応は賛否両論様々であり、また試算ではチケットの払い戻し等だけでも約1,600億円もの経済損失になるとか。苦渋の決断だったのでしょうか。“安全に開催する”事を第一に考えれば今の状況では仕方ないことかも知れません。東京開催が決定した時の“お・も・て・な・し”的フレーズ。日本と日本人の精神文化を見事に集約した一言だったのですが、それを世界に発信・紹介する機会がなくなってしまった事は非常に残念に思います。

今月号から，“鹿児島市医師会基本理念”を会員の先生方と共有したいという上ノ町会長の強い要望もあってその文言を表紙に掲載することになりました。少しだけリニューアルしております。

「誌上ギャラリー」は永田先生よりお寄せいただいた“-しだれ桜-三カ所神社(五ヶ瀬町)”。見慣れたソメイヨシノのような華やかさと違って、しっとりとした物静かな美しさが感じられます。

「論説と話題」では3月6日から2日間に渡ってWEB開催された令和2年度日本医師会医療情報システム協議会の模様を掲載いたしました。“つながれ、輝け医療ICT”をメインテーマに、最近注目されているオンライン診療、医療用AI等の現状について各方面から報告されています。

「医療トピックス」では中木原先生から、新型コロナウイルス感染症の各種治療薬について、用法・用量から副作用、作用機序まで詳細に説明いただきました。

「学術」では2題のご投稿をいただきました。今村総合病院の永野先生からは脳卒中における遠隔画像診断システムの有用性と今後の課題について、実際に指宿地区をモデルとした運用状況から考察していただき

ました。離島を含めたいわゆる“医療過疎地”的多い我が県では、脳卒中に限らず、様々な疾患に対しての専門医による指示を受けることが可能になるこのような連携システムの必要性は高く、早急な普及が望まれるところです。鹿児島市立病院の山本先生からは重症低酸素性虚血性脳症に対する膜型人工肺(ECMO)を併用した低体温療法の著効例をご報告いただきました。ECMO併用の有無で予後の改善に大きく差があること。重症例の呼吸・循環管理におけるECMOの重要性を再認識させられました。

「隨筆・その他」では吉庄先生から【遠隔医療・聴診器・デング熱・子供たちの家・ポリオ撲滅】と題して珍しい4カ国切手を供覧していただきました。

リレー隨筆は県立大島病院の徳田先生よりいただきました“ツルとラジオとマラソン”。出水市の御出身ということで、ツルに対する思い入れはかなりのものとお見受けしました。ラジオ出演のエピソードや、趣味のマラソンの話など楽しく拝見させていただきました。

「鹿市医郷壇」4号の題吟は「入学“にゅがっ”」でした。なるほどと唸らせる作品が多く、いつも楽しく拝見しております。会員の先生方も是非挑戦してみて下さい。

春、新入学・新社会人の皆さんのがスタート時期となりました。情勢が落ち着かず、様々な不安はあるでしょうが、入学早々の休講やリモート授業、入社早々の出社停止やテレワークなど、新しく出会った仲間と机を並べることさえ出来なかった昨年と比べれば、はるかにましと言えます。コロナ禍はまだまだ続きそうですが、何にせよ明日の我が国を担う若い力の門出です。応援しております。

(編集委員 寺口 博幸)